

第 14 回 日本海研究集会
教育研究機関の船舶情報交換会-身近な事例に学ぶ

日 時 : 2025 年 11 月 8 日 (土) 13:30~17:00
場 所 : 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 標本館 3 階講義室
(対面形式のみ)
共 催 : 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所
コンビナー : 益田玲爾・鈴木啓太 (京大フィールド研)
問い合わせ先 : suzuki.keita.3r@kyoto-u.ac.jp (鈴木啓太)
参加申込 : Google フォーム 「<https://forms.gle/D43KruPvFP4anhHh6>」
申込期限 : 2025 年 10 月 10 日 (金)

1. 開会挨拶 伊藤進一 (水産海洋学会 会長)
13:30~13:35
2. 趣旨説明 益田玲爾 (京大フィールド研)
13:35~13:40
3. 話題提供
 - 3-1. 京都大学舞鶴水産実験所「緑洋丸」 鈴木啓太 (京大フィールド研)
13:40~13:55
 - 3-2. 京都大学生態学センター「はす」 合田幸子 (京大生態研)
13:55~14:10
 - 3-3. 山口県水産研究センター「すおう」 内田喜隆 (山口水研セ)
14:10~14:25
 - 休憩・「緑洋丸」見学 - 14:25~15:30
 - 3-4. 京都府立海洋高等学校「みずなぎ」 木村博義 (京都府立海洋高校)
15:30~15:45
 - 3-5. 福井県立若狭高等学校「雲龍丸」 濱詰孝之 (福井県立若狭高校)
15:45~16:00
 - 3-6. 島根大学隠岐臨海実験所「アルゴ」 吉田真明 (島根大生物資源)
16:00~16:15
 - 休憩 - 16:15~16:25
4. 総合討論 進行 : 鈴木啓太 (京大フィールド研)
パネリスト : 話題提供者 6 名
(株) ニシエフ小浜工場 1 名
ヤンマー船用システム (株) 宮津営業所 2 名
16:25~16:50
5. 閉会挨拶 鈴木啓太 (京大フィールド研)

16:50～17:00

開催趣旨：水圏の環境や生物に関する教育研究活動を展開するにあたり，必要十分な機能を備えた船舶と豊かな経験と知識をもった船舶職員の存在は大変重要である．近年，安全性と効率性への要求が強まるにつれて，船舶職員の責任と役割は増大する傾向にある．しかし，出先機関や遠隔施設のような小規模な組織では船舶職員の人数が限られているため，経験や知識を共有して学び合う機会が少なく，若手を計画的に育成することも難しい．また，代船は20–30年おきに建造されるが，前任者の異動や退職にともないノウハウが失われていたり，組織の運営体制や造船業界の状況が変化していたりする結果，担当者が手探りで計画を進めなければならないことも多い．そこで，このような悩みを共有する近隣の教育研究機関の船舶職員が集まり，船舶の建造や運用に関する情報を交換し，身近な事例に学ぶことを目的として本研究集会を開催する．総合討論では船舶職員同士が意見を交換するばかりでなく，造船関係者をパネリストに迎え，技術的な議論も行う予定である．